畑作・野菜・花き生産情報 第６号

令 和 ８ 年 ９ 月 １８ 日
青森県「農林水産力」強化本部

◎　共通事項：台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水溝の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底しよう！
◎　大豆の生育は、おおむね順調です。適期収穫に向け準備を進めよう！
◎　倒伏や浸水等した大豆のほ場は、別刈りしよう！
◎　小麦は、ほ場の排水対策と土づくり、適期は種で越冬前の生育を確保しよう！
◎　ながいもの生育は平年を下回っています。今後の病害虫防除を徹底しよう！
◎　にんにくは計画的にほ場や種子の準備を行い、適期に植え付けしよう！
◎　夏秋トマトや秋ギクの生育は順調です。施設では換気をこまめに行うなど、適正な温度管理に努めよう！
◎　ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

畑 作 物

１　大　豆

（１）生育状況

・草丈や稔実さや数は地域によりバラツキが見られるが、生育は順調である。
・生育が旺盛なほ場の一部で倒伏している。
・食葉性害虫による食害やべと病の発生が見られる。

表　大豆の生育状況　（９月 10 日現在）

場　所	年　次	は種期（月日）	出芽期（月日）	開花期（月日）	草　丈（ｃｍ）	主茎長（ｃｍ）	葉　数（枚）	分枝数（本）	稔実莢数（本）
農林総合研究所（黒石市）	本　年	5/22	6/3	7/21	112.0	64.0	14.2	1.8	26.1
	(平年差･比)	(3日早)	(2日早)	(5日早)	(109%)	(109%)	(101%)	(58%)	(65%)
	平　年	5/25	6/5	7/26	102.4	58.6	14.0	3.1	39.9
	前　年	5/28	6/6	7/20	88.2	47.6	13.3	2.2	38.6
野菜研究所（六戸町）	本　年	5/25	6/2	7/29	105.2	67.5	－	2.5	33.3
	(平均差･比)	(平年並)	(2日早)	(4日遅)	(96%)	(103%)	－	(109%)	(111%)
	平　均	5/25	6/4	7/25	109.7	65.7	－	2.3	29.9
	前　年	5/26	6/4	7/20	107.5	64.0	－	2.8	37.0
藤崎町（中野目）	本　年	6/2	6/12	7/27	101.3	－	13.8	－	39.6
	(平年差･比)	(平年並)	(平年並)	(平年並)	(107%)	－	(103%)	－	(116%)
	平　年	6/2	6/12	7/27	95.0	－	13.4	－	34.2
	前　年	6/2	6/11	7/24	94.0	－	12.8	－	44.2
つがる市（木造柴田）	本　年	6/1	6/8	7/28	85.1	－	13.7	－	40.6
	(平年差･比)	－	－	－	－	－	－	－	－
	平　年	－	－	－	－	－	－	－	－
	前　年	5/28	6/7	7/19	105.8	－	14.4	－	53.0
十和田市（三本木）	本　年	6/4	6/14	8/1	107.9	－	14.9	－	26.1
	(平年差･比)	(3日遅)	(4日遅)	(4日遅)	(109%)	－	(110%)	－	(85%)
	平　年	6/1	6/10	7/28	99.4	－	13.6	－	30.7
	前　年	6/5	6/14	7/23	117.7	－	13.3	－	28.7

注）①品種は「おおすず」
②平年値は農林総合研究所が過去 19 か年、野菜研究所の平均は過去 3 か年の平均値（令和６年除く）、藤崎町が過去 15 か年、十和田市が過去 16 か年の平均値。つがる市は R6 から設置のため平年値無し。

（２）収穫等での留意点

・立枯病発病株を確認したら、速やかに抜取りを行い、ほ場外で処分する。
・台風や大雨でほ場に滞水しないよう、明きょなどによる排水対策を徹底する。
・汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
・コンバイン収穫では、子実水分が 20%以下、茎水分が 50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
・土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。
・倒伏したほ場や、大雨により浸水や冠水したほ場は別刈りを行う。

２　小　麦

（１）ほ場の準備

ア　耕起・砕土

出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるため、耕起・砕土は丁寧に行い、砕土率（土塊の大きさ２cm 以下）70%以上を確保する。

イ　土づくり

小麦の生育に適した土壌酸度は pH6.0～7.0 である。pH6.0 以下では生育が悪くなるので、苦土石灰等で酸度矯正をする。また、りん酸資材の施用は生育を促進し、分げつや稔実をよくするので、土壌中の有効態りん酸は 10mg/100g を目標に改良する。

有機物や土づくり肥料の施用により地力の維持・向上を図る。

ウ　排水対策

明きょや弾丸暗きょ、心土破砕などの排水対策を必ず実施する。

エ　施肥

基肥は、堆肥施用の有無や連作年数あるいは前作を考慮して基準量を増減する。

表　土づくり肥料投入量の目安

資材名	投入量(kg/10a)
石灰資材	100～150
ようりん	100～150

表　地力条件と施肥量

地力条件	基肥量（kg/10a）		
	窒素	りん酸	加里
堆肥が施用され地力が高い（野菜跡地等）	５～６	12～15	９～10
堆肥が施用されず地力が並み（基準量）	７～８	12～15	９～10
地力が低い（連作３年以上のほ場など）	９～10	12～15	９～10

（２）は種

ア　は種時期

越冬前の生育量を確保するため、９月 25 日頃までに、は種作業を終える。

イ　は種量

ネバリゴシ及びキタカミコムギのドリル播きによるは種量は、津軽地域では８～10kg/10a、県南地域では６～８kg/10a である。は種時期が９月第６半旬以降にずれ込む場合には、２kg/10a 程度は種量を増やす。

ウ　種子消毒

紅色雪腐病やふ枯病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。

※ふ枯病：成熟期に葉枯症状を引き起こし、低収の要因となる。
令和７年産以降、西北地域で発生が見られている。

表　地域及び品種別は種時期・量（10a 当たり）

品　種	ネバリゴシ・キタカミコムギ		ゆきちから		もち姫
地　域	津軽	県南	津軽		県南
は種時期	9/16～25	9/16～25	9/16～25	10/1～20	9/15～25
は種量	8～10kg	6～8kg	8kg	11kg	6～8kg

（３）雑草防除

土壌処理剤の散布は、は種後速やかに行う。また、小麦生育期では雑草の生育が進む前に茎葉処理剤を散布する。

野　菜

1　ながいも

（1）生育状況

・地下部の生育は、７月下旬から９月上旬において、低温・日照不足の期間があったことから、平年を下回っている。
・病害虫は、炭そ病、葉渋病、ナガイモコガ、コガネムシ類の発生が見られる。

表　ながいもの生育状況　（９月 10 日現在）

調査地点	年次	植付期	萌芽揃期	つるのネット頂到達日	9月10日		
					いも長	いも重	いも径
		（月日）	（月日）	（月日）	（cm）	（g）	（mm）
野菜研究所	本年	5/25	6/22	7/14	65.5	737.8	60.7
	(平年差・比)	(平年並)	(平年並)	(1日早)	(89%)	(80%)	(103%)
	平年	5/25	6/22	7/15	73.6	924.9	58.7
	前年	5/27	6/22	7/10	72.4	859.4	54.2
五戸町上市川	本年	5/8	6/20	7/15	75.3	978	58.4
	(平年差・比)	(１日遅)	(7日遅)	(遅7日)	(90%)	(93%)	(101%)
	平年	5/7	6/13	7/8	83.5	1,046	58.0
	前年	5/14	6/23	7/10	92.3	1,321	60.0
東北町滝沢平	本年	5/12	6/3	7/19	69.0	642	56.1
	(平年差・比)	(3日遅)	(平年並)	(遅13日)	(102%)	(75%)	(107%)
	平年	5/9	6/3	7/6	67.8	852	52.6
	前年	5/14	6/8	7/1	75.5	1,128	52.2

注）①平年：野菜研は令和３～令和７年の５か年の平均値。
五戸町、東北町とも平成 28～令和７年の 10 か年の平均値。
なお、東北町は令和６年度から担当農家を変更した（萌芽期のデータを除き、過去のデータの蓄積があるため平年値として利用）。
②種子：野菜研は園試系６の１年子（90～110ｇ）ガンク切除（植付 30 日前）、五戸町は庄司系の２年子（120～150ｇ）ガンク切除、東北町は庄司系の１年子（100ｇ）頂芽付
③栽植様式：野菜研は畦幅 120 ㎝×株間 24 ㎝（3,472 株/10a）、五戸町は畦幅 120 ㎝×株間 22 ㎝（3,788 株/10a）、東北町は畦幅 115 ㎝×株間 27 ㎝（3,249 株/10a）

（2）今後の留意点

・いもの肥大に重要な茎葉を維持するため、病害虫防除に努める。
・採種ほ場では、ウイルス罹病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
・台風などによる強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
・植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

２　にんにく

・種苗増殖にあたっては、ウイルス感染及びイモグサレセンチュウ汚染拡大防止のため、種苗増殖「専用ほ場」を設置するとともに、ＪＡ等から購入した「優良種苗」を植付ける。
・植付は 10 月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
・ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
・イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後 50 日頃からりん片に現れ始めるので、種球の発根付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対植付けしない。
・黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。

３　秋冬だいこん

（１）生育状況

・出芽は良好で、葉長・葉数・根重いずれも平年を大幅に上回っており、生育は順調である。
・病害虫の発生は見られない。

表　秋冬だいこんの生育状況（９月 10 日現在）

調査地点	年次	は種期（月日）	9月10日		
			葉長（cm）	葉数（枚）	根重（g）
東北町滝沢平	本年	8/3	38.0	16.6	196.9
	（平年差・比）	（３日早）	(125%)	(113%)	(279%)
	平年	8/6	30.4	14.7	70.5
	前年	8/11	35.0	19.9	117.6

注）①平年：平成 28～令和７年の 10 か年の平均値（令和８年度から担当農家を変更したため平年は参考値）
②品種：S-139
③栽植様式：畦幅 188 ㎝×株間 22 ㎝、３条植え（7,253 株/10a）

（２）今後の留意点

・キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
・台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

４　秋にんじん

（１）生育状況

・８月から９月上旬において、低温・日照不足の期間があったことから、葉長、根径、根重は平年をかなり下回っている。
・病害は、黒葉枯病の発生が見られる。

表　秋にんじんの生育状況（９月 10 日現在）

調査地点	年次	栽培法	は種期（月日）	9月10日				
				葉長（cm）	葉数（枚）	根長（cm）	根径（mm）	根重（g）
平川市大木平	本年（平年差・比）	露地	6/20（平年並）	45.3（81%）	9.3（119%）	15.5（97%）	33.6（90%）	75.3（80%）
	平年	露地	6/20	55.9	7.8	15.9	37.5	94.1
	前年	露地	6/19	57.9	6.6	15.0	36.7	82.8

注）①平年：平成 28～令和７年の 10 か年の平均値
②品種：向陽２号

（２）今後の留意点

・黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
・葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L 級を中心に収穫する。
・台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

５　ごぼう

（１）生育状況

・草丈、葉数とも平年をかなり上回っており、生育は順調である。
・病害虫は、アブラムシ類、ヒョウタンゾウムシ類、コガネムシ類、黒条病の発生が見られる。

表　ごぼうの生育状況（９月 10 日現在）

調査地点	年次	は種期（月日）	9月10日	
			草丈（cm）	葉数（枚）
三沢市猫又	本年（平年差・比）	5/7（2日遅）	110.4（110%）	4.2（120%）
	平年	5/5	100.0	3.5
	前年	5/14	119.5	4.0

注）①平年：平成 28～令和７年の 10 か年の平均値
②品種：柳川理想

（２）今後の留意点

・黒条病、黒斑細菌病、うどんこ病、黒斑病、アブラムシ類、ハムシ類の防除に努める。
・台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

６　夏秋トマト

（１）生育状況

・落花や尻腐果等が見られるものの、着果量は確保しており、生育は順調である。
・病害虫は、灰色かび病、うどんこ病、すすかび病、灰色かび病、タバコガ類などの発生が見られる。

表　トマトの生育状況（９月 10 日現在）

調査地点	年次	定植期	７段果房		９段果房		11段果房	
			開花	着果数	開花	着果数	開花	着果数
		（月日）	（月日）	（個）	（月日）	（個）	（月日）	（個）
中泊町 八幡	本年	5/1	7/3	1.8	7/18	4.2	8/4	4.1
	（平年差･比）	（4日遅）	（3日遅）	（75%）	（3日遅）	（140%）	（4日遅）	（178%）
	平年	4/27	6/30	2.4	7/15	3.0	7/31	2.3
	前年	5/5	7/6	3.2	7/22	4.5	8/5	3.8
三戸町 斗内	本年	5/9	7/17	0.3	8/8	2.7	8/30	－
	（平年差･比）	（2日早）	（4日早）	（11%）	（平年並）	（142%）	（1日早）	－
	平年	5/11	7/21	2.7	8/8	1.9	8/31	1.7
	前年	5/12	7/15	2.4	7/30	1.9	8/20	2.1

注）①平年：中泊町は令和３～５年の平均値（令和６年度から担当農家が変更となったため参考値）、三戸町は平成 28～令和７年の 10 か年の平均値
②品種：中泊町はりんか 409（台木：キングバリア）、三戸町はりんか 409（自根）

（２）今後の留意点

・かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、９月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
・最低気温が 16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
・日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を２枚残して摘葉し、通気を確保する。
・タバコガ類、コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。
・台風や大雨に備え、ハウスの補強や施設周辺にある排水溝の点検・整備、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底する。

花　き

1　秋ギク

（1）生育状況

・生育はおおむね順調である。

・病害虫は、アザミウマ類が散見される。

表　生育調査（9月 10 日現在）

場　所	年　次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備　考
五所川原市	本　年	神　馬	7/10	87.9	42.4	2本仕立て
	(平年差・比)		(4日遅)	(94%)	(88%)	
	平　年	神　馬	7/6	93.5	48.0	2本仕立て
	前　年	神　馬	7/10	88.8	45.4	2本仕立て

注）平年：五所川原市は平成 22～令和７年の 16 か年の平均値

（2）今後の留意点

ア　温度管理

・ハウス内の温度は、日中 25℃以下、夜間 15℃を目標に管理する。

イ　ビーナイン処理（施設栽培のみ）

・花首の伸びやすい品種は、ビーナイン顆粒水溶剤等を発らい期に散布する。効果が不十分な場合には摘らい期に２回目の散布を行う。

ウ　芽かき

・わき芽は、小さいうちにかき取る。

エ　病害虫の防除

・白さび病、灰色かび病の予防に努め、アブラムシ類、アザミウマ類、ヤガ類等の早期発見・早期防除を徹底する。

・特にオオタバコガは被覆したハウス内で越冬し、来年の発生源となる可能性があるため、防除を徹底する。

オ　収穫

・２～３分咲きを目安に採花する。

・採花は涼しい時間帯に行う。早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

2　夏秋ギク

・親株養成に切り下株を利用する場合は、日当たりと排水のよいハウスを選ぶ。

・健苗を確保するため、病害虫の被害が無い健全株を選び、10 月下旬までに伏せ込みを行う。

畑作・野菜・花き生産情報第７号は令和８年 10 月 20 日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中　～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎環境にやさしい農業に取り組んで、「みどり認定」を受けましょう。

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者を認定（みどり認定）しています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の優先採択、低利・無利子融資などのメリットがあります。
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

１　栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
２　家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には､55℃以上の温度が３日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
３　家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は２か月、土壌に近い野菜は４か月空けましょう。
４　農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら
→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html

◎備えあれば、憂いなし！　農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。
１　自然災害リスクをカバーしたい方
農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。
２　様々なリスクをカバーしたい方
収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。
※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎秋の農作業安全運動展開中です。（９月１日～10 月 31 日）

県では、農業機械等による事故を防止するため、「秋の農作業安全運動」を展開しています。
農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認！」を心がけ、 安全第一で農作業事故をなくしましょう。
＜農作業安全のポイント＞
１　作業前に危険な箇所を確認し、安全な環境づくりに努めましょう。
２　なるべく１人での作業は避けるとともに、緊急時の連絡のために携帯電話を持ち歩きましょう。

３　家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけ合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょう。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（４月 20 日～11 月 30 日）

１人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。特にクマの行動が活発になる早朝、夕方は注意が必要です。

野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。

農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。

詳細は県ホームページをご確認ください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html

---

連 絡 先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	５０７３
直　　通	０１７－７３４－９４８０
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	５０７６
直　　通	０１７－７３４－９４８１